

災害救助犬訓練 見に来て…

小山の会員らが初開催

【小山】災害救助犬を育成する栃木自主訓練会が13日午前9時から、中河原の鬼怒川の対岸にある鬼怒緑地運動公園（茨城県筑西市）南の河川敷で開かれる。

犬20匹以上が参加。訓練士の指導を受けながら、服従訓練や搜索訓練など初級・中級レベルに合わせた訓練を行う。

災害救助犬は警察犬と異なり、特定の人を探すのではなく、がれきの下など空気に漂う人のおいを頼りに探す。同法人は全国組織で、現在25

人。 今回の事務局で訓練士の中島、ドッグスクールピッピ校長の池沢清隆さん（58）は「本県は地震災害の確率は低いが、土砂災害、山菜採り、登山の行方不明者などの搜索救助に役立つよう訓練している。仲間を増やしていきたい」として、定期的に自主訓練会を開催するという。

NPO法人災害救助犬ネットワーク（本部・富山市）の県内会員有志が初めて開催する自主訓練。救助犬育成に興味のある一般の見学も受け付けている。

都府県に会員が88人おり、認定犬42匹を育成。年1回、10月に認定試験がある。県内の会員は5

当日午前8時半に現地集合。JR水戸線川島駅から徒歩約10分。問い合わせはピッピ ☎0296・32・7504。

京都、宮城、福島、高知など11府県から訓練士、ボランティアなど約30人と認定救助犬、候補

13日、筑西市鬼怒川河川敷